

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

- ・職員、保護者で前衛的な取り組みを行う中で信頼関係の築き、子どもの姿、成長に即応した協力体制を強化していく。
 ・職員一人ひとりの専門性を高めると同時に、苦手の克服に向けて園全体でバックアップしていく。
- ・園独自のサービスを最大限のアピール方法を見出し、黒字化をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)		取り組み状況
①	職員、保護者の信頼関係の進化、強化	子どものこと、成長面、育児相談など日々のコミュニケーションを大切にすることから、信頼関係はさらに密なものになった。
②	園の独自サービスに付加価値をつけて着実にアピールする	・誰でも通園制度、ルポタイム(未就園児向け親子イベント)から次年度の入園児が決まった・夕食会(在園児)を月1回行うことで保護者に子どもの食事面の進め方、育ちに気付く機会、保護者同士のコミュニケーションをとる機会、子育ての共感の場を提供できた。 ・子育て講座、座談会、製作会を通してリフレッシュの場、共感の場を提供できた。
③	・職員一人ひとりの専門性を高めると同時に、苦手の克服に向けて園全体でバックアップしていく。	それぞれのペースで取り組んでいたが、克服など大きな成長、バックアップまではできていない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

子どもの成長に向けての取り組み、保護者の子育てに関する取り組み、リフレッシュに関する取り組みは大いに成功した。職員の専門性を高めることに関しては、個人差がある。また苦手なことを周りでバックアップすることはできたと思うが逆にサポートすることで伸びる機会を逃していたようにも思う。正規職員、パート職員がいることで、全員で話す機会が持てないことで連携が難しくなることもあった。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題		具体的な取り組み方法
①	全体で知識を高める機会、意見交換を行う機会を持つ	・職員会議を全員で行う ・法人内外の研修の機会を持つ
②	子どもの成長に向けた取り組みをさらに追及し、園と繋がる子ども、保護者の人数を増やす	・個人目標の活用方法を保護者にさらにアピールする ・英語の取り組みについて具体的に伝えていく ・誰でも通園制度、ルポタイム(未就園児向けイベント)の広報をホームページ、インスタグラム、チラシ、回覧で魅力的にアピールしていく
③		
④		

6. 学校関係者の評価

令和七年度一年を通して、各施設が異年齢での保育・教育に積極的に取り組むことで、年齢ごとの保育・教育では獲得できない領域でのお子様の成長をうながすことができたとの客観的成果報告が多くあった。これら賞賛すべき成果は法人本体と各施設、何より職員一人ひとりが同じ教育保育目標を深く理解して、共感し合ったことにより成し得ることができたものであると考える。

そのため、現場レベルではコミュニケーションが質量ともに高まり、それがベテラン職員と若手職員、法人本部と各施設など垂直的、水平的に垣根を越えて展開されることになったことは、必然性を伴った良い方向での副次的効果であったと言える。

更には、法人が内設する臨床スキル研究所の公認心理師・臨床心理士との連携により、エビデンスに基づいた個別のお子様、集団としての複数のお子様に適応した現場において実現可能な発達支援や心理支援が有機的に行われていたことは、この間の研究投資に対する成果の一つであったと評価できる。

理事会・評議会としては、全国的な人手不足、物価高、少子化といった複合的問題に対して耐えうる収益状況の強化を各施設、職員の方々と協力し合いながら構築していきたいと考えている。

令和8年3月18日 理事会・評議会